

幼児期にふさわしい 『国際感覚を育むための体験・経験』

グローバルな感覚を育む機会の創出に向けた
アドバイザーボード（第2回）

内田千春

2026/03/27

幼児期から「グローバルな感覚」を 考えるにあたって 幼児期からは早すぎる？

グローバルな感覚は、包括的なもの。

乳幼児期の子どもたちは毎日世界に出会い、
かかわり、楽しみ、学ぶ。世界との出会いは包括的。

グローバルな感覚は、気づきの中から身につけていくもの。

ものごとの様々な性質の違いを認知し、
言語と結びつけて理解していく。

互いの共通点と違いを、発達に応じて理解していく。



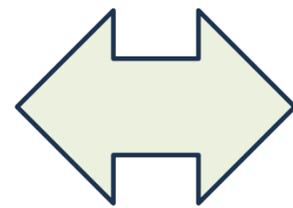
幼児期に気づいてほしいこと

<p>家族とは異なる いろいろな人がいること</p>	<p>家族の地域とのかかわりから来る経験。 入園後の園を通して出会う多様な人間関係。</p>
<p>『自分』について知る</p>	<p>異なる相手と出会い、『自分』のアイデンティティにつながる文化を知る。 異なる相手の背景となる文化に触れる。</p>
<p>より広い世界の存在を 感じる</p>	<p>自分の身近な世界の向こうに、 もっと広い世界があることを感じられる。</p>
<p>新しいことへの好奇心・関心</p>	<p>新しいことに会う経験。その時、いっしょに面白がってくれる大人や仲間が近くにいる。</p>

保育者の言語的文化的多様性とかかわる経験について

OECDの国際調査での、保育者の回答（国立教育政策研究所2020）から
-言語的文化的多様性に関わる研修等で学ぶ機会が少ない、対応方法に自信がないと感じている保育者が他国より多い。

言語や文化が異なると、子どもとの
かかわりに難しさを感じる（全幼研
2016）



養成教育や研修で学ぶ機会を
提供できる人材が少ない（内田2020）。

大人自身の経験が少ない場合、
よい取り組みから互いに学ぶ機会が必要。

事例 1：パラリンピックをテレビで見たよ

D園 4歳児

A児 オリンピック見た？いすにすわったスキーすごかった。

B児 イタリアでやってるんだよ。

C児 いすにすわって、すべる？（と自分たちが座っている椅子を見る）

A児 こうやってすわって…ここにすべるのがついてて（実演する）

B児 コルテナ（コルティナ）ってイタリアなんだよ

⇒三人三様のパラリンピックとの出会い方

⇒担任は、集まりの時に、この会話をとりあげ、3人から考えたことをみんなに共有する機会をつくった。

パラリンピックという言葉を紹介。

用意しておいた写真付き新聞記事を見て、スキー競技について知っていることを出し合う。

部屋にある地球儀で、イタリア探し。

事例 2 : 世界にはいろいろな言語があるらしい

都内 E園 4歳児クラスに伺ったときのこと…

F児 ねえねえ、ぼく韓国語しゃべれるよ。

内田 そうなんだ、すごいね。韓国語か～一つ私も言えることがあるよ。

アンニョンハセヨ。あってる？

F児 あってまーす

G児 私も韓国語言えるよ。アンニョン！ Aに教えてもらった！

H児 (近づいてきて) 私、日本語とタイ語言えるよ。

担任の話： Aさんは韓国ルーツを持つお子さんです。少し前に韓国語を話す方が園見学にいらっしゃったときには、今やっている活動について韓国語で説明をしてくれたんですよ。私たちも嬉しかったし誇らしかったです。タイ語は、少し前に地域のタイの方にお祭りの話をしに来てもらった時に、みんなでタイ語を習ったんです。

事例 3：うたを通して体験する

J園5歳児 おぼえ始めた歌を歌っていたときのこと。歌詞の中にある、ワン、ツー、スリー、フォーと英語で数える部分があったとき、中国語でも数えて歌う子どもたちがいた。

担任：英語以外で数え方知ってる人いますか。歌えるかもしれないから教えてほしいな。

K児 中国語はね～（と10まで数える）

多くの子ども（真似て練習した後、中国語に歌詞を変えて数えて歌う）

L児（となりのGに）ねえねえ、ネパールは何ていうのGちゃん（ネパールルーツの子ども）

M児 え？えっと… エク、ドゥイ、（わからなくなる）ママにきく。

N児、O児（日本ルーツ） え～～なんで。知らないの？

担任 Mさんは、今思い出せないから、ママに聞いてきてくれるそうです。

P児（ネパールルーツ）わかるよ。エク、ドゥイ、ティン、チャール、パンツ（1～5まで数えてみせる）

M児 ママに聞いてくるの。

このクラスには、たまたまいろいろなルーツを持つ子どもたちがいましたので、お互いがリソースになっています。
いろいろな「かぞえうた」をとりあげると、日本語の中に実はいろいろな数え方があることにも気づけます。

身近なことから育む「グローバルな感覚」

日本人の中にある様々な生活様式、様々な環境の中で、自分たちの生活が成り立っている感覚をもつ

- 地域の人に園に訪問してもらい、お話を聞く
- 保護者の協力を得て、いろいろな体験や仕事・生活を紹介してもらう

日本の中にも多様な文化や言語がある

- 日本語には、いろいろな方言があり、言葉の違いがあること
- 図書館など、いろいろな言語に接することが出来る場所がある
- いろいろな郷土料理や遊びの違い、習慣の違いがあること
- 世界にはいろいろな言語があり、いろいろな文字があること

幼児期だからこそ、どのように 異文化と出会うかを大切に考える

周囲の大人の役割

= 機会をつくる + 機会があったときの子どもの理解



- 身近な違いに気づくことで自分のことを知り、自分に誇りをもって生きていける基盤づくり
- 違うことを大事にする環境で育つことで、人を思いやれるし自分を大事にできる